

妊婦健診

-日本共産党地方議員奮闘-

08年県内全市町村が5回以上助成実施へ



県内各自治体で予算議会も終了し、4月から新年度がスタートしました。妊婦健診については、これまで多くの自治体で税金が助成される回数が増えましたが、08年度は全市町村で5回以上の公費助成となりました。その内、東根市、中山町、大江町、舟形町は7回、庄内町は10回の助成を実施します。

妊婦健診は、一回数千円から一万円以上かかりますが、経済的理由で健診を受けずに出産にいたるケースもあり、全国的には救急搬送で死産の問題も起きました。

厚労省は、昨年一月市町村に、「14回程度の助成が望ましいが、最低限5回は必要」との通知を出していました。

私も昨年、9月議会で「県としても、市町村に働きかけるとともに、助成を考えるべき」と主張し、県内各自治体

の日本共産党地方議員もそれを取り上げてきました。背景には、全国の子育て世代の方々の強い願いや運動があり、新年度大きく拡充されました。しかし、今後の課題も大きいものがあります。

国は、「少子化対策のための交付税措置を増額している中で、妊婦健診の助成も増やせるはず」と市町村に言っています。しかし、市町村に必要な行政サービス全体の交付税は、この間、毎年のように削減されているのです。市町村の財政状況とその姿勢まかせになっていきます。安心して子どもを産み育てられる社会の実現のため、国の税金もムダ使いを改め、こつこつとそこに優先して使わなくてはなりません。県も積極的な姿勢が求められています。今後全国的運動とも呼称して関係者を取り組んでいきます。

課題は国の財源を伴った対策

こんにちは

渡辺ゆり子

2008年4月13日
第29号
発行
日本共産党県議会議員
渡辺ゆり子
<連絡先>
日本共産党県議団執務室
電話 023-630-3241
自宅：山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

県医師会が「後期高齢者診療料」算定見合わせ

-全国で広がる制度の見直し、中止の声-

後期高齢者医療制度が4月からスタートしましたが、山形県医師会には海野行会長名で会員に、「後期高齢者診療料」の算定見合わせの通知を出しました。

「後期高齢者診療料」は、複数科にまたがりやすい高齢者の診療を、主治医一人（主病は一つ）と見て、報酬を月定額に包括する内容です。実施されると、主治医以外の医療機関への受診や治療が制限される心配が出てきます。

医療機関にとっても、それぞれ専門分野を生かした診療のパラメータが崩れ、良い医療を提供できなくなる問題点が指摘されています。日本医師会も後期高齢者医療制度については批判的ですが、茨城県医師会は医療費抑制をねらったものとして公然と反対し、撤回運動を展開することや、後期高齢者医療の診療手続きに協力しないことを明言。青森市医師会も後期高齢者

診療料を算定しないよう呼びかけています。

私は、先の2月定例県議会で、この「後期高齢者診療料」などについて取り上げ、「高齢者への差別医療だ」と指摘し、制度に関連する議案に反対しました。県議会には、制度の見直しを求める請願が提出されていますが、継続審議となっています。

全国では、国への見直し、中止を求める地方議会の意見書が急速に広がっています。中央社会保険推進協議会と「赤旗」の調査によると、4/6現在15都道府県と545の市区町村あわせて560地方議会で全自治体の30・1%にあたります。

私も議会内外での運動を広げていきたいと取り組んでいます。

後期高齢者医療制度が4月からスタートしましたが、山形県医師会には海野行会長名で会員に、「後期高齢者診療料」の算定見合わせの通知を出しました。

「後期高齢者診療料」は、複数科にまたがりやすい高齢者の診療を、主治医一人（主病は一つ）と見て、報酬を月定額に包括する内容です。実施されると、主治医以外の医療機関への受診や治療が制限される心配が出てきます。

医療機関にとっても、それぞれ専門分野を生かした診療のパラメータが崩れ、良い医療を提供できなくなる問題点が指摘されています。日本医師会も後期高齢者医療制度については批判的ですが、茨城県医師会は医療費抑制をねらったものとして公然と反対し、撤回運動を展開することや、後期高齢者医療の診療手続きに協力しないことを明言。青森市医師会も後期高齢者



議会の日程

4月22日(火) 各常任委員会
4月23日(水) 各特別委員会

4月の県議会
定例会は閉会中ですが、委員会が開催されます。

後期高齢者医療制度がスタートしました。すでに法案としては、06年に通っており、私も県議員の時から、制度の問題点など機会あることに様々な場で話をしてきましたが、みなさんまだ「こが遠い話だったよ」です。この3月から4月にかけてマスコミも取り上げ、保険証や保険料などの通知が届くようになって状況が違ってきました。「何よりも、これまでがんばってきた高齢者に冷たい、姥すて山のような扱いだ」、「家族と支え合っていたのに、一人一人別建てなんて、なんで引き離すんだ」とか、実際にそういう言葉が返ってきます。

参院選で示された民意は、「政治を変えないと自分たちの命や暮らしを守れない」と各分野でさらに大きくなっていくと感じます。「長寿医療制度」と看板をすげかえたから済むという話ではありませんが、制度の見直し撤回の運動をさらに広げましょう。

ゆり子の視点

「年寄り死ね」というのが差別医療に怒り広がる